

優秀賞

おばあちゃんのために

香川県 太田小学校 六年
竹林 優芯

ぼくのおばあちゃんは、島根県で一人暮らしをしています。そこは、日本海が近くてきれいなところだけれども、バスや電車は近くを通っていないし、周りには人があまり住んでいません。こんなところでおばあちゃんは、毎日一人でさびしいのでは、といつも心配していました。

今年の夏休み、ぼくはおばあちゃんの家で4日間過ごすことになりました。おばあちゃんの家は、まどを開ければエアコンがいらなくらい、すずしいところでした。

けれども、外からはセミの鳴き声しか聞こえず、夜は暗くてひっそりとしていました。二人で一晩過ごただけで、ぼくは香川に帰りたくなりました。

2日目の朝、おばあちゃんが急に、

「ゆうくん、おばあちゃん今から買い物に行くから、ちょっと待っててね。」

と言って、サッと家から出て行ってしまったのです。スーパーまでは自転車とバスで片道1時間かかると思っていたので、ぼくはここで何時間くらい留守番をするのだろうかと思うと、なみだが出そうになりました。すると、

「ただいま。ゆうくん、お待たせ。」

と言って、両手に買い物ぶくろをかかえたおばあちゃんが、すぐに帰ってきたのです。ぼくは、目が飛び出るくらいびっくりしました。

「おばあちゃん、しゅん間移動できるの？」

と、思わず聞いてしまいました。すると、おばあちゃんは笑いながら、

「スーパーの人がね、いろいろな物をのせた車でわざわざ来てくれるんだよ。」

と教えてくれました。週に一回、スーパーが移動販売に来てくれるそうです。おばあちゃんは、今日はぼくがいるから早く帰ってきたらしく、いつもだったら移動販売のお店の人とたくさんおしゃべりしているということを、うれしそうな顔でぼくに話してくれました。

次の日の朝には、近所の人が車で買い物に行く前に、おばあちゃんをさそいに来ました。きのう買ったから大丈夫だ、とおばあちゃんは断っていたけれど、明日はぼくもいっしょに買い物に連れていってくれることになりました。

それから、ぼくが香川に帰るまでに何度も、いろいろな人がおばあちゃんの家に来ました。ほんのわずかな時間だけれど、毎回おばあちゃんは、来た人と楽しそうにおしゃべりをしていました。毎日たがいに声をかけ合って、元気かどうかを確かめているのだと、おばあちゃんは言いました。

けれどもぼくは、これはおたがいに元気を分け合っているのではないかと考えました。少しだけでも顔を合わせて話をすれば、きっとさびしさがなくなって、代わりに元気をもらえるのだと思います。

島根で過ごしたことで、ぼくは人がふれあうことの大切さを知りました。移動販売の人や近所の人が、おばあちゃんにさびしい思いをさせないようにしてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。

ぼくも、毎日おばあちゃんにテレビ電話をして、元気をあげようと思います。